

# 『フィジカルアセスメント』 研修会実施報告

日時 : 令和2年7月21日

対象者 : プリセプティ・プリセプター (実施指導者)

参加者数 : 23名

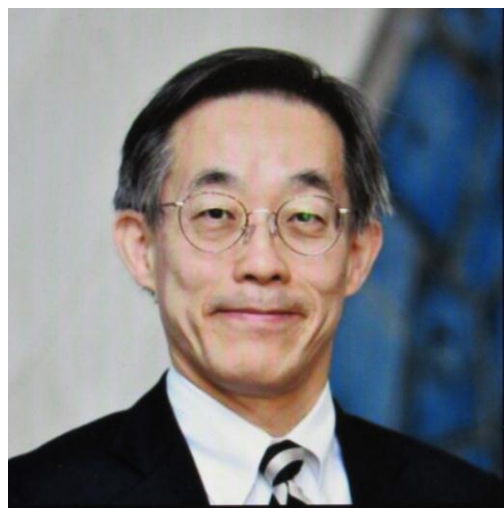
目的 : 1. フィジカルアセスメントの意義を理解し EBN に基づいた看護が提供できる。  
2. 実施指導者としてモデルとなる行動をとれる。

## <講師の紹介>

放送大学大学院文化科学研究科  
生活健康科学教授 山内豊明先生

1985年新潟大学医学部を卒業され医師として勤務された後、1997年にアメリカでナース・プラクティショナーの免許を取得される。帰国後、2002年名古屋大学医学部基礎看護学講座教授となられ、現在、放送大学大学院文化科学研究科生活健康科学教授としてご活躍されています。

当院においても看護必要度研修、フィジカルアセスメント研修など長年にわたりご指導いただいています。



## <内容>



今回、新型コロナウイルス感染症対策のためスキルアップ委員会としては初めてのオンライン研修として開催されました。講義内容は「フィジカルアセスメント・臨床推論の進め方」「バイタルサイン～意義・実際・応用～」 「呼吸器系のアセスメント」「心不全」でした。全身状態の観察は医療機器だけに頼るのではなく五感を用いて観察することが重要であり、基本に戻って看護を行うことの大切さを改めて実感しました。呼吸器系アセスメントでは音声・動画を流しながらの講義で

あったため受講生から「とても分かりやすかった」「聞き分けができるように経験を積んでいきたい」「学んだことを日々の業務で意識し、異常の早期発見ができるようになりたい」などの意見が多数ありました。多くの学びを得ることができ自己の能力向上につながる研修となったと思います。今回の研修の学びを実践に活かし、質の高い看護を提供できる看護師に成長されることを期待しています。